

平 和 宣 言

戦争終結75年の節目を迎えようとする今日、私たちは、忌^いまわしい戦争の記憶を風化させない、再び同じ過^{あやま}ちを繰り返さない、繰り返させないため、沖縄戦で得た教訓を正しく次世代に伝え、平和を希求する「沖縄のころ・チムグクル」を世界に発信し、共有することを呼びかけます。

戦後、沖縄県民は人権と自治が抑圧された米軍占領下にある中、先人から大切に受け継がれてきた文化を守り、チムグクルを育みながら、復興と発展の道を力強く歩んできました。

しかしながら戦後75年を経た現在もなお、国土面積の約0.6パーセントに米軍専用施設の約70.3パーセントが集中し、米軍人・軍属等による事件・事故や航空機騒音、P F O S^{ピーフォス}による水質汚染等の環境問題は、県民生活に多大な影響を及ぼし続けています。

名護市辺野古で進められている新基地建設の場所である辺野古・大浦湾周辺の海は、絶滅危惧種262種を含む5,300種以上の生物が生息しているホープスポットです。世界自然遺産への登録が待たれるヤンバルの森も生物多様性の宝庫であり、陸と海が連環^{れんかん}するこの沖縄の自然体系そのものが私たちウチナーンチュのかけがえのない財産です。

この自然豊かな海や森を次の世代、またその次の世代に残していくために、今を生きる我々世代が未来を見据え、責任を持って考えることが重要です。

県民の平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に発信し、国際平和の創造に貢献することを目的として、2001年に創設した沖縄平和賞の第1回受賞者であるペシャワール会の中村^{なかむら}哲^{てつ}医師が、昨年^なの末、アフガニスタンで凶弾に倒れるという突然の悲報がありました。中村先生は人の幸せを「三度のご飯が食べられ、家族と一緒に穏やかに暮らせること」と説き、現地の人々が生きるために河を引き、干からびた大地を緑に変え、武器を農具に持ち換える喜びを身をもって示されました。私たちは、中村先生の「非暴力と無私の奉仕」に共鳴し、その姿から人々が平和に生きることとは何かを学ばせていただきました。

しかし、依然として世界では、地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域があり、貧困、飢餓、差別、人権の抑圧、環境の破壊などの構造的な暴力が横行しています。

さらに、全世界で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、人々の命と生活が脅かされる未曾有の事態にあり、経済活動にも甚大な影響が生じています。この感染症は、病気への恐れが不安を呼び、その不安が差別や偏見を生み出し、社会を分断させるという怖さを秘めています。

だからこそ、世界中の人々がそれぞれの立場や違いを認め合い、協力し、信頼し合うことにより、心穏やかで真に豊かな生活を送ることができるよう、国連が提唱するSDGsの推進をはじめとした人間の安全保障の実現に向け、国際社会が一体となって取り組んでいくことが今こそ重要ではないでしょうか。

ここ平和祈念公園には、国籍や人種の別なく戦争で亡くなられた全ての方々の名前を刻む「平和の礎^{いしじ}」があります。礎^{いしじ}の前で、刻まれた名前をなぞりながら生きていた証を感じ、いつまでも忘れないとの祈りを寄せる御遺族の姿は、私たちの心に^{しんしん}深々と染み入ってきます。

平和の広場の中央には、被爆地広島市の「平和の灯^{ともしび}」と長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火と、沖縄戦最初の米軍の上陸地である座間味村阿嘉島で採取した火を合わせた「平和の火」がともされております。私たちは、人類史^た上に類を見ない惨禍を経験されたヒロシマ・ナガサキと平和を願う心を共有し、人類が二度と「黒い雨」や「鉄の暴風」を経験することがないように、心に「平和の火」をともし、尊い誓いを守り続ける決意を新たにします。

そして今こそ全人類の英知を結集して、核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立のため総力をあげてまい進しなければなりません。

く 此りまでい^あに有て一ならん^{いくさゆゑ}戦争因に^{あたらぬち}可惜命、^{うしな}失みそ一ちや
かたがた たましー などうなどうー 人々ぬ^く魂^{たましー}が^{なごう}穏々^{ぐとう}とうなみしえ一^{うにげー}る如^く御祈^{うにげー}っし、
く さちじやち ゆー 此りから未^{いくさ}来ぬ^{ねー}世ね一^{みるくゆー}戦争ぬ^{まに}無らん^{まに}弥勒世（平和）^{まに}招ち、
うまんちゆ ゆるく みつ あ 御万人ぬ^{しんていー}喜びぬ^{にんぐわん}満ち溢んでいぬ^{しんていー}なみしえ一^{にんぐわん}し心^{しんていー}底から^{にんぐわん}念願
っし、^い行ち^{うむい}ゆる^{うむい}所存^{うむい}やいび一ん。

I pray that the souls of those who lost their lives in past wars may rest in peace. I will continue to pray for peace and happiness in the future of mankind.

本日、慰霊の日に当たり、犠牲になられた全ての^{たま}み^{たま}霊に
心から^{あいとう}哀悼の^{まこと}誠^{まこと}を捧げるとともに、私たちは、戦争を風化させないための道のりを真摯に探り、我が国が非核平和国家としての^{きようじ}矜持^{きようじ}を持ち、世界の人々と手を取り合い、この島が平和交流の拠点となるべく国際平和の実現に貢献する役割を果たしていくために、全身全霊で取り組んでいく決意をここに宣言します。

令和2年6月23日

沖縄県知事 玉城 デニー

（うちなーぐち・英語の訳）

これまでの戦争による犠牲になった人々の魂が安らぎあらんことを祈り、これからの人類の未来には平和と喜びあらんことを祈り続けます。